世界と日本における難民の保護・受け入れ

認定NPO法人難民支援協会 代表理事
石川　えり様

卓話者紹介　　**山下　憲男委員長**

1976年生まれ、上智大学卒業。1994年のルワンダにおける内戦を機に難民問題への関心を深め、大学在学中、JAR立ち上げに参加。大学卒業後、企業勤務を経て2001年より難民支援協会（JAR）に入職。直後よりアフガニスタン難民への支援を担当、日本初の難民認定関連法改正に携わり、クルド難民国連大学前座り込み・同難民退去強制の際にも関係者間の調整を行った。2008年1月より事務局長となり2度の産休をはさみながら活動。2014年12月に代表理事就任。第5回日中韓次世代リーダーズフォーラム、第2回日韓未来対話にそれぞれ市民セクターより参加しました。2人のお子様のお母様です。

アインシュタイン、ハリルホジッチサッカー日本代表監督、ルーマニアの元体操選手コマネチも難民でした。ハリルホジッチ監督は、ボスニア・ヘルツェコビナ紛争の時はサッカー選手でしたが、当時から平和を訴えていました。しかし、彼自身が銃撃され、フランスに逃れ、今はフランス国籍を取得していると聞いております。アインシュタインもナチスドイツの迫害を逃れアメリカに行った難民です。難民といっても多様な背景をもつ多様な人たちです。

現在、難民が流出している国で一番多いのがシリアで、アフガニスタン、ソマリア、スーダン、南スーダン、コンゴ民主共和国です。

紛争などを逃れて難民・避難民となった人は第二次世界大戦以降最悪の状況で6500万人を超えました。特に悪化しているのはシリアの状況で、2200万人の人口の２人に１人はすでに難民となり、国内か国外へ逃れている状況です。国外で最も逃れているのはトルコの280万人で、欧州よりもずっと多い数字です。内戦後すでに５年が経過しようとしていて、最初は周辺国で帰国の望みを持っていた人たちも、それが薄くなり、食糧配給も減る中で命を懸けて、希望が見える国へ移動しようとしています。欧州に多くの難民が移動している状況ですが、厳しい風も吹いているのが現状です。しかし、受け入れるという原則を崩さず対応している国も多く、各国の状況を丁寧に見ていく必要があると考えます。加えて、地続きでないアメリカ、カナダ、オーストラリアなどの国々は、難民を迎えに行って受け入れるという仕組みを採用しており、カナダはパリの同時多発テロ事件の後、２万５千人を今年の３月までに受け入れました。

難民を支援するためには１．難民を生み出す紛争の根を絶つこと、２．国内に残っている人、周辺国に逃れた人を支援すること、３．平和で安全な国が受け入れることが等しく必要だと考えています。特に３．は日本にいる私たちこそができることです。

翻って日本の状況は、昨年の難民認定は27人と非常に少ない状況です。難民となるには、証拠をすべて自分で作成する等の厳しいハードルが課されています。また平均３年間の待機期間中、最低限のセーフティーネットがなくホームレスを余儀なくされる人が続出するなど厳しい状況に置かれています。難民はいつまでも支援を必要とする人ではなく、自立し、私たちと同じように社会に関わり、貢献することを願っている人も多くいます。東日本大震災の時、多くの難民は第二の故郷である日本で被災者を助けたいと志願して被災地に行き、支援に携わりました。日本に逃れてきた難民が、日本社会の中で排除されず、包摂されていくために、民間の支援の立場からできることをしていきたいと思います。

本日は貴重な機会を頂きましてありがとうございました。皆さまに頂戴しました募金は15,000円となりました。心より感謝申し上げます。難民支援のため、大切に活用させていただきます。

閉会点鐘　　**小田　孝志会長**

卓話予定

11月2日「保健・医療・福祉の動向と地域との関わりー地域包括ケアシステムの時代を迎えてー」
野村病院理事長・東京武蔵野RC　野村 幸史様

11月 9日「歯周病の恐ろしさ」　小池　正会員

11月16日「今、なぜ田中角栄なのか」
作家　大下　英治様

11月23日　祝日休会

創 立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾒｿﾞﾝ九段 906号
Tel：03-3288-7300 Fax：03-3288-7400
E-mail：ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
http://tokyo-orc.jp/

例会日 毎週水曜日　12:30～13:30
例会場 ホテルグランドパレス　Tel：03-3264-1111
会　長 小田　孝志　　幹事 奥山　聡
会　報 八木　壮一（委員長）松島　健（副委員長）
大原正道 佐々木啓策 山下秀一 山下憲男(委員)